

目指す学校像	「古くて新しい植竹中の創造」～わかる授業 明るい学級 夢を育む学校～
--------	------------------------------------

重点目標	1 生徒の能力を引き出し、内容の定着を図る「わかる・できる」授業の展開 2 安全・安心で豊かな学校づくりの推進・整備 3 地域に根ざし、信頼される学校づくり(コミュニティスクール)の推進 4 チーム「うえたけ」のバージョンアップ
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日令和5年2月14日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	□現状 ①中学校入学段階で、基礎学力の修得状況に大きな個人差が多く見られる。 ①小学校との合同研修会が、ここ2年間、コロナ禍で開催できなかった。 ②主体的、対話的な授業を進めていく上で、個々の生徒が使用するタブレットは整ってきているが、問題点も多い。 □課題 ①小学校との合同研修会の開催及び情報の共有化を図るには、どうしたらいいか。 ②大規模校のため、ICT環境が悪く、学年全体や全校生徒が一斉にタブレットを使うことができない。また、修繕にかかる日数が長い。 ②アクティブラーニング型の授業を実践していくには、準備に時間がかかる。	①基礎学力の定着化。 ①小学校と基礎学力の修得状況の確認、指導方法の工夫、改善	①小・中合同研修会を夏季休業中に開催し、各教科での共通指導事項を明確にさせ、6年生対象のチャレンジテストを実施する。(2学期末まで)その結果を中学校側が分析し、小・中合同で共有化を図る。 ①技能教科を中心に兼務発令を行い、教科専門的な指導方法を伝え、学力向上に資する。	①小学校教員に対するアンケート調査結果(満足度80%以上) ①チャレンジテストの結果、分析の共有	①夏季休業中の合同研修会では、教育図創家の菅野吉雄先生を講師に、いじめの初期対応・不登校や通常学級にいる特別支援が必要な生徒の対応について講演いただき、大変好評であった。 ●関係小学校3校へのアンケート結果 ①次年度も継続して実施したいと考えていますが、いかがですか。継続実施(100%) ①各教科ごとの分析結果についてはいかがですか。大変良い(100%)	B	コロナ禍が続き、本来であれば、小・中合同研修会を年2回実施したかったが、夏季休業中のみとなってしまった。次年度は、チャレンジテストの分析結果も踏まえた合同研修会が開催できるように計画を練り直す。	タブレットの故障については、さいたま市教育委員会に修理期間の改善を至急取り組んでもらいたい。不利益を被っている生徒がいる状況は、改善が必要である。
2	□現状 ①危機管理研修会(エビペン・救命措置)を年度当初と7月に開催している。 ②コロナ禍でも感染症対策を講じ、できる範囲の中で行事を止めることなく進めている。 □課題 ①教職員の危機管理能力(特に救命・AEDの使用など)において、まだまだ養護教諭や保健体育科の教員に対する依存性が高い。 ②大規模校のため、保護者の来校者数制限などを設けなくてはならない。	①教員の危機管理意識の向上	①「AEDを含む応急手当講習会」「防災安全教室」「薬物乱用防止教育」についての授業及び校内研修会を実施する。 ①「知識より意識」「意識よりも行動」を合い言葉に、誰もが、どこでも対応できるよう、依存性を取り払う。	①教職員の危機管理意識調査(年2回)*2回目の意識向上	①授業については、校長が講師となり実施。意識は高まったと考えられる。教職員の危機管理意識については、個々の部分では向上している部分もあるが、まだまだ養護教諭や保健体育科教諭への依存性が高い。	C	危機管理意識を向上させるには、繰り返しの研修と日頃からの意識を持たせることである。次年度も年度当初の危機対応訓練から定期的に授業、研修会を開催していく。	コロナ禍の状況が依然続いているが、コロナ以前のように制限なしの学校行事等の実施を来年度も希望する。
3	□現状 ①学校運営協議会が今年度より発足し、さまざまな分野の人材を委員として選出している。また、来年度、創立70周年に向けて、さらに地域や保護者の意見を参考に学校経営に生かしていかなければならない。 ②昨年度から後援会を発足し、学校への協力体制が出来上がりつつある。 □課題 ①学校運営協議会委員の女性委員を増やすこと及び創立70周年に向けての組織体制づくりをどのようにしていくか。 ②後援会組織を学校だけでなく、地域の協力も得られる体制づくりに移行していくことが必要である。	①学校運営協議会委員からの意見聴取、実践	①創立記念事業の内容を関係組織と準備委員会を発足し、次年度の実行委員会につなげる。 ①生徒、保護者の要望を踏まえ、また関係者の意見を聞きながら、次年度の制服変更に向けての詳細を決定していく。	①準備委員会の発足及び予算の確保 ①植竹中ならではの制服制定	①準備委員会発足までに至らず。 ①制服については、検討委員会を設置し、生徒、保護者、若手教職員の意見を参考に、最終的に3社からのプレゼンテーションを実施し、本校らしい制服が決定した。	C	創立記念事業については、関係各所に意見を聴取し、どのような組織で行うかを確認していく。	創立70周年記念事業については、現在のPTA役員の協力を得ながら、記念式典や70周年記念体育祭等の行事を実施することを希望する。 避難所運営訓練への生徒の参加やわかたかスマイルコンサートは大好評であった。来年度も引き続き実施を希望する。
4	□現状 ○若手教員が多く、勤務時間も長い。 ○必ずやらなければならない仕事とやらなくてもよい仕事の住み分けができていない。 □課題 ○若手教員の保護者対応等の指導力向上を図っていく必要がある。 ○個々の業務改善目標をクリアできる体制をつくっていかなければならない。	○教職員の働き方改革の推進	①若手教員に向けて、指導力向上学習会を1学期末までに最低5回実施する ①教職員の働き方改革及び心身の健康管理のため、部活動を実施しない日を国のガイドラインを大きく上回る年間130日間確保する。 ①併せて、スポーツを科学する取り組みから、研修会を開催し、指導法の工夫・改善を図る。	①教職員アンケート(満足度70%以上)	①なかなか教職員の働き方改革に結びつき取り組みができていない。その中で若手教員(初任者・臨時的任用教員)には、勤務時間後に指導力向上や教員採用試験に向けての学習会を開催。さいたま市の教育についての理解が深まったと考える。 ①ソフトボール部を中心に「ワン・タップ・スポーツ実証実験」「SPLYZA teams」「AiGROW」等を活用し、コンディショニング管理アシスレティックトレーナーや栄養士の介入によるフィジカルパフォーマンスの向上、食事スコアの向上が見られ、これまで県大会にも出場できなかったが関東大会まで進むなど、着実な成果が見られた。	C	次年度も必ずやらなければならない仕事とやらなくてもよい仕事の住み分けを行うことで、働き方改革に結び付けていく。 部活動においては、引き続き、スポーツコミッションや関係各所と連携を図りながら予算の確保に努めていく。	引き続き、様々な関係箇所と連携を図り、生徒の活躍の場を広げてほしい。

